

エビデンスベーストヘルスケア 特講I

中澤 港

minato-nakazawa@people.kobe-u.ac.jp

<http://minato.sip21c.org/ebhc-j.html>

研究の型

- 問題発見型
 - パイロットスタディ
 - ケースレポート
 - 記述調査
 - 問題の定式化
- 問題解決型: 通常は標本調査で, 検出力分析を用いたサンプルサイズの設計を含む適切な研究デザインが本質的に重要
 - 仮説検証: サンプルング→データ→図示→区間推定や検定→有意差や相関の検出, モデルの当てはめ
 - 介入研究: 典型的にはRCT(無作為化統制試験)

データへのアプローチ

- インタビューまたは質問紙: 通常は問題発見型研究で行われる
 - 構造化/半構造化/非構造化(自由回答型)
- 観察(測定を含む)
- 実験(動物実験やRCTを含む): 通常は仮説検証型研究で行われる
- メタアナリシス・システマティックレビュー

サンプルサイズ

- 全数調査(悉皆調査)(サンプルではない)
 - 問題発見型研究に多い
 - 一般に用いられる統計学的手法は直接使えない
- 標本調査
 - 仮説検証型研究, 動物実験, 介入研究では適切な標本抽出(サンプルング)が必須
 - 臨床研究では, ある期間内に集まった症例数で妥協するしかない場合があるが, あくまで妥協
 - 原則として標本サイズはきちんと設計する必要がある。ソフトを使うと便利。PSやEZRがおすすめ
 - 動物実験や介入研究ではとくにクリティカル(サンプルサイズが小さくて検出力が足りなかったために有意な差が検出できなかったという言い訳は通用しない)